

第1回エコ学習コンクール「講評」

金沢大学附属図書館長・柴田正良

平成24年11月3日

みなさん、こんにちは。この度、第1回エコ学習コンクールの審査委員長を務めました、金沢大学附属図書館長の柴田正良と申します。

今回、受賞された方々には、まことにお目出とうございます。
みなさんの作品・調査・研究は、今回応募された多くの作品の中なかでも飛び抜けて優れた作品であるという評価を、審査員のみなさんから頂くことができました。

今回、応募頂いた作品の総数は、小学生部門が44作品、中学生部門が19作品ありましたが、とくに印象的だったことは、その多くの作品の中で、昨年の東日本大震災のこと、また福島原発事故のことが触れられていた点です。これは、将来の日本を担う子供たちの中で、しっかりと環境や防災のことが意識されている証だと、大いに頼もしく感じられました。

震災や事故という全体のトーンの中で、明るい未来やユーモアを感じさせる作品があったのも大きな救いでした。受賞された作品は、みなそれぞれの明るさで輝いています。そして、これは大学生や大人の研究でも同じですが、やはり、その人の独創性、オリジナリティーが大変大事であって、その独特の視点からその人なりのストーリーが作られているのかどうか、という点が評価の一番大きなポイントとなりました。今やいろいろな情報が本やインターネットによって簡単に手に入る時代ですが、そのような情報を切り貼りするのではなく、そこから自分なりのストーリーを作る、という点が重要だと思います。

さて、今回は、受賞圏内に残った作品でありながらも、すでに他の賞を受賞していたためにこちらの賞を遠慮して頂いた作品がありました。大変残念でしたが、これは、優れた作品がすべての賞を独り占めしていくのではなく、できるだけ多くの作品がそれぞれに相応しい場所で輝いてもらうように、受賞の重複を避けさせてもらったからです。これはまた、今後、このエコ学習コンクールが地域の小中学校の、他にないユニークな賞として定着し、独自の存在意義を持つようになってもらいたいという私ども願いの表れでもあります。どうぞそのようにご理解頂ければ幸いです。

さて、最後ですが、このコンクールの出発点は、日産自動車さんから支援していただき、平成22年度からこの自然科学系図書館の2階に設置いたしております「環境学コレク

ション」の利用拡大にありました。私ども、金沢大学附属図書館は、このコレクションの充実を通して、環境に関する教育と研究を支援し、地域のみなさまとのつながりをますます深めていくことを願っております。

本日は、みなさま、どうも有り難うございました。